

進学重点校学力向上事業（平成25～27年度）

宮城県教育委員会

1 目的

地域拠点校の活性化を目指し、指定校の進路指導体制の充実や教員の指導力向上を図るとともに、生徒の志の育成を支援する。併せて仙台地区における支援校に対しても、教員の指導力向上について支援することで、県全体の進学達成率の向上を図る。

2 指定校及び支援校

(1) 指定校（10校）

白石・角田・古川・古川黎明・石巻・石巻好文館・築館・**岩ヶ崎**・佐沼・気仙沼

(2) 支援校（18校）

仙台一・仙台二・宮城一・仙台二華・仙台三・泉館山・仙台南・仙台向山・泉・宮城野・富谷・多賀城・名取北・仙台西・仙台東・泉松陵・利府・仙台三桜

3 事業期間

平成25年度から平成27年度までの3年間とし、継続して支援する。

4 事業内容

事業項目	事業内容	支援対象
1 進路指導体制の改善と向上	①模試分析ワークショップ 模試分析を通じた各学校の現状把握と関連した講義を通じて、指定校及び支援校との情報交換・協議により進路指導体制の改善と向上を図る。	指定校 ・ 支援校
	②授業改善研修会 予備校における研修を通じて、教員の教科・進路指導力の向上を図る。	
	③授業構成・教材研究法講座 予備校の講師を活用して、進学指導を実践的に検討し、教科・進路指導力の向上を図る。	
2 生徒の志育成	①特別講座（各校が独自に企画） 1・2年生を対象に外部講師を活用した講義などの生徒の志を育成する事業を、各校独自に企画し、実施する。	指定校
3 各校独自の取組	各校が独自に実施する取組を財政的に支援する。 ①1年及び2年生を対象に学力の向上や志の育成を図るもの 学習習慣診断カードの作成・学習合宿等 ②校内の進路指導体制の充実につながるもの 進路指導体制の改善に関する校内研修	

5 対象経費等

県教育委員会は、指定校及び支援校に対して、当該事業の実施に要する経費を予算の範囲内で令達する。

6 その他

- (1) 指定校及び支援校は、本事業により得られた成果の校内での共有を図る。更に指定校においては、報告会の開催やホームページに掲載するなどして他校への普及に努める。
- (2) 指定校及び支援校は、年度ごとに事業実施計画書及び報告書を作成し、教育長に提出する。
- (3) この要項に定めるもののほか、本事業に係わる必要な事項は、教育長が別に定める。

(様式2)

平成26年度進学重点校学力向上事業実施報告書(指定校)

学校名 宮城県岩ヶ崎高等学校

1 学校の現状と目標について

(1) 現状と課題

- ・小規模校ではあるが、入学生徒の進学意識は高く、地域からの期待も大きい。
- ・高校入試で定員割れしているため、成績上位層と下位層の二極化の傾向が見られる。
- ・いわゆる受験指導は行われてきたが、3年間を見通した進路指導、キャリア教育は行われていない。
- ・知識が定着していれば解ける問題には対処できるが、思考力を伴う問題を苦手とするため、2年生までの伸びに比べ3年生での伸びが芳しくない。

(2) 進学指導上の目標(3年間での到達目標) ※数値目標を含むこと

- ① 学年数に1時間を足した家庭学習時間が定着している。
- ② 教育課程に関する入試情報が共有され、組織的かつ継続的に進路指導と授業展開が実践されている。
- ③ 2年生終了時には、確かな学力を身につけさせ、国公立大学15名以上の合格を目指す。また、各学年の模試において15名以上が偏差値55以上を達成する。
- ④ 進路シラバスを活用し、生徒自ら進路の選択・決定が学年段階に応じてなされている。

(3) 平成26年度における進学指導上の到達目標 ※数値目標を含むこと

- ① 生徒の学問への関心・意欲を高めるような大学出張講義・進路講演会・卒業生(大学生等)を講師とした講話等の実践および授業の展開。
- ② 国公立大学合格者数15以上

2 平成26年度に実施した個別事業について

※予算化されなかった事業についても記入してください。

事業項目	ねらい	実施状況	成果と課題
進路指導 ワークショップ	進路指導における課題の把握、進路指導における総合的な学習の時間の活用、センター試験に代わる入試スタイルについて理解する。	年2回進路担当者が参加。1回目のワークショップで話題になった「総合的な学習の時間」の活用について、函館陵北高校の事例を学ぶ。また、センター試験に代わる新しい入試について講義を聴く。	函館陵北高校の総合的な学習の時間の実践例は、大変参考になった。本校においても総合的な学習の時間を効果的に活用することにより進路意識を高めたい。

授業改善研修会	教員の指導力向上を図る。	教務部主催による相互授業参観の実施およびアンケート等による相互授業評価年2回実施。	若手教員の指導力向上につながった。継続し、新課程の授業力向上に努める。
授業構成法講座	教員の指導力向上を図る。	9月に東北学院大学文学部教授村野井仁先生の講演を聞きし、12月には文部科学相向後秀明調査官による授業改善ワークショップを実施した。	他の学校の英語科の先生方も多数参加。中身の濃い研修会であった。
学習習慣診断カード記入による家庭学習定着指導	家庭学習の定着と学習計画の作成・見直しを行い学力の向上を図る。	継続して実施することができ二者面談・三者面談以外でも生徒の学習状況さらに生活状況の把握に努めることができた。	家庭での学習習慣の確立に役立っている。今後も継続して取り組む。
大学出張講義	大学の授業・講義を視聴することで進路意識の学習意欲の高揚を図る。	2・3年生を対象に8講座を実施。大学の先生の講義を直接聞くことが進路選択にも生かされた。	継続実施。
指定校合同学習合宿	指定校の生徒が合同合宿することにより、学習意欲・進路意識を向上させる。	築館高校との合同実施で約100名の生徒が参加。互いに受験生徒としての自覚を持つことができた。また、先輩の大学生との懇談を通して進路意識が高められた。	次年度は本校が中心となって実施。自学用の教材やプログラムを両校の先生方で検討したい。本校生徒の参加人数は昨年の約2倍であった。
他校視察	高い進学実績を誇る高校の授業を視察することにより進学指導へ役立てる。	築館高校の先生方と盛岡三校を視察。本校からは英語科と数学科の教員2名が参加。授業を参観する他に学校経営の説明を受け、改めて「人づくり」の延長上に進学実績があることを学んだ。	「人づくり」を中心に据えた進路指導を職員一丸となって行う体制を整えたい。
1・2年模擬試験検討会	生徒の実態把握により、適切な進学指導ができるようにする。	ベネッセのスタディサポート分析および7月・11月の模擬試験分析会を実施。学習到達度の把握ができ、進路の選択や受験科目選択に有効であった。	継続実施。

予備校講師による学習会	外部講師を招き、大学受験対策として、センター試験の得点率の向上を図る。	2年生を中心に4科目（現代文、英語、数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・B）を実施。センター試験の出題傾向と学習方法を身に付けることができた。	継続実施。
校内進学指導研修会	本校と同じような学校規模・成績で進学実績をあげている高校の先生の話聞き、本校の進学指導に役立つ。	岩手県立金ヶ崎高校の進路指導主事千田俊久先生による講演を聞き、小規模ながら実績をあげるための方策を学ぶことができた。	進路事務の効率化、保護者や生徒への提案の仕方等大いに参考になった。
進路体験発表会	2年生の進路意識の高揚と明確化を図る。	進学、就職(公務員)の進路を達成した3年生から参考になる体験談、助言をもらい、進路意識を高揚させることができた。	昨年度はA0・推薦合格者だけであったが、今年度は一般合格者からも体験談を聞くことができ、入試の厳しさを感じることができた。
各種校内コンクールおよび朝学習	語彙力、表現力、発想力等の向上を図る。	全学年を対象に漢字コンクール(年8回)、数学コンクール(年2回)、小論文コンクール(年2回)を実施した。	継続実施。
小論文学習会	小論文の構成、資料読み取り等の講習・講義を通し、記述力の向上および小論文指導の向上を図る。	外部講師を招き、年2回実施。(1年生対象は11月、2年生対象は12月に実施)	総合的な学習の時間の小論文指導に生かすことができた。また、A0・推薦指導に向けての準備として取り組むことができた。

3 進学指導上の目標の達成状況と評価

※ 1の(3)に記入した「平成26年度における進学指導上の目標」における達成状況と評価等について記入してください。

①

ア 達成状況と評価 概ね全ての進路行事を円滑に実施することができた。合同学習合宿や予備校講師による学習会には、事前に学年集会を開きその趣旨を説明することにより昨年よりも参加生徒が増えた。また、新課程を意識した進路指導を実践できた

イ 次年度以降の対策 「総合的な学習の時間」を有効に活用し、3年間を見通した進学指導体制を作る。

②

- ア 達成状況と評価 国公立受験者の内6名が合格ということで数値目標を達成することができなかった。
- イ 次年度以降の対策 次年度はAO・推薦を含め国公立大学受験者を増やしたい。進路対策会議を開き、情報の共有化を図り、自宅通学圏内の大学を希望する生徒や保護者へ幅広く学校選択ができるような提案をしたい。

4 進路実績について

(1) 進路実績 (平成27年3月27日現在)

*すべて実数で記入すること。

	進学拠点校学力向上事業		進学重点校学力向上事業			
	平成24年度 (H25.3卒業生)		平成25年度 (H26.3卒業生)		平成26年度 (H27.3卒業生)	
	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	9	9	8	8	6	6
国公立短期大学	0	0	0	0	0	0
私立4年制大学	80	42	88	48	78	39
私立短期大学	2	2	1	1	12	10
大学校	1	0	2	2	3	3
進学準備	0		1		1	
小計(大学等進学希望者)	53		60		59	
専修各種学校	24		27		33	
就職	7		4		13	
その他	0		0		2	
卒業生数	84		91		107	

(2) 平成26年度(平成27年3月卒業生) 進学実績

*具体的な大学名を記入し、大学名の後に(合格者数)を記入すること。

①国公立4年制大学
福島大学(1) 宮城大学(1) 都留文科大学(2) 群馬県立女子大(1) 長岡造形大(1)
②国公立短期大学
なし

③私立4年制大学
東北学院大(15) 盛岡大(12) 宮城学院女子大(10) 東北福祉大(2) 東北薬科大(1) 岩手医科大(1) 東北芸術工科大(1) 白鷗大(4) 獨協大(1) 専修大(1) 国際医療福祉大(1) 大東文化大(1) 日本大(1) 国士舘大(1) 他
④私立短期大学
仙台青葉学院短大(4) 聖和学園短大(2) 女子美術大学短期大学部(1) 新渡戸文化短大(1) 岐阜保健短大(1) 他